

すべては原宿から始まった

LGSシステムは原宿、キャットストリートで、
店舗用の建築システムとして産声をあげた。

1994年

Light Gage Steel System



LGSシステムは、1999年、東京は原宿のキャットストリートで生まれました。キャットストリートは渋谷川というドブ川にふたをして作った遊歩道です。ですから、その当時はキャットストリートに面する建物は皆、川＝通りに背を向けて立っていました。そこから徐々に、とおり側に顔を向けた建物を作っていく必要が生じました。

とはいえ、原宿周辺は大変道幅が狭く、遊歩道は川にふたをした道ですから、重量制限もあり、一筋縄では建築がむずかしい。そこで、軽量かつローコストで、小さなレッカーでも工事ができる建築工法を考え出す必要が生じたのです。LGS工法は、みごとにその難しい要求をクリアーできるシステムでした。

店舗の個性が外に滲み出してくる建築物

また、店舗建築は何と言っても、顔／ファサードが命です。建物そのものが店舗の個性を表現しているようにしたい。むしろ店舗の個性が外部に滲み出してくるような建物にしたい。それが当時

考えていたことでした。そこで、LGSシステムの1.8m×2.7mのフレームそれ自体を利用して、ガラスのカーテンウォールを構成するシステムを開発しました。

LDKオフィス(1999)
WIRED DINNER(2000)
X-GIRL(2001)

それらがこの当時の代表的なLGSシステムの店舗建築です。店舗がアパレルならば、商品の色や素材感のリズムがそのまま外部に滲み出すように。カフェならば、ゆったりとした時間の流れがそのまま外部に伝わるように。そのような控えめな設計意図のもとに企画をしました。

理由のある構造の骨格だけが、店舗の内部空間とともに、外部から見とれます。そのことがむしろ、店舗の楽しさや落ち着きをデフォルメして外にむかって表現することにつながり、大変好評を博した店舗群になりました。LGSシステムはここからさまざまな進化を遂げていくことになりました。その基礎は原宿で鍛えられたのです。

